

年 組 名前:



グループになり、
会話を楽しむ参
加者ら「富士河口
湖・中央公民館

外国人住民に日本語教室

富士河口湖町は、同町船津の中央公民館で、町内に住む外国人を対象にした日本語教室を開いている。宿泊施設などで働く外国人が増加したことを受け、昨年から開催。地域の一人として安心して暮らしながら、以前から暮らす住民との相互理解を深める狙いがある。町政策企画課の担当者は「受講をきっかけに、少しでも地域住民らとコミュニケーションを取る機会をつくってほしい」と話している。〈高橋咲良〉

富士河口湖町 労働者増加受け 地域と交流、理解深める場に

同課によると、町内の外国人は2023年4月は約650人だったが、今年4月時点では145人とう倍近くに増えた。23年に外国人労働者の在留資格「特定技能2号」の対象に宿泊や外食業が追加され、主にネパールからの移住者が増えたことが背景の一つという。

外国人住民の増加を受け、町は昨年10月に日本語教室を開始。同町船津の日本語学校「みやま国際学院」の斎藤仁志校長ら2人が講師を務め、日常会話を教えている。県国際交流協会が実施する研修を終えた「日本語教室パートナー」もボランティアで参加し、地域の話題などをテーマに会話している。

24年度の講座は17回開き、45人が受講。好評だったことから25年度は26回に増やした。利用者はネパールやベトナム、中国などアジアが中心。初回の5月27日はオリエンテーションを行い、19人がグループごとに自己紹介などをした。

英国出身で、3年前に同町に移住したロバートさん(42)は「知らない人と交流し、仕事以外で会話ができるチャンス。助かっている」と感想。日本語教室パートナーを務める額谷一夫さん(76)は「日本に働きに来ている人の手助けになりたい」と話す。

同課の担当者は「日本語があまり得意でない人にこそ、受講してほしい。町に移住してくれた外国人が孤立せずに、コミュニケーションの一員として過ごせるようにしていきたい」と話している。

(2025年7月18日付 山梨日日新聞17面)

問1 この記事について、下記の要約を教えてください。

・だれが: ・いつから: ・どこで:

・なにを:

・なぜ:

問2 町内の外国人が、昨年から2倍近くに増えた理由を教えてください。

.....

問3 この取り組みについて、あなたは、どこが良いと思いますか。

.....